

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2674000316		
法人名	有限会社 アールエムシー		
事業所名	洛和グループホーム桂 1階		
所在地	京都市西京区川島調子町35-1		
自己評価作成日	平成30年8月31日	評価結果市町村受理日	平成31年3月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&ki_jyosyoCd=2674000316-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成30年10月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成28年4月に千代原口より移転増床し新しい場所でのスタートとなった施設としては幼老統合型複合施設洛和ウィズかつらとして小規模保育園・居宅介護支援事業所・訪問看護ステーションが一体となった施設である
日頃より園児との交流が持てる環境があり、日常的に自然にふれあえている。近所にはカフェがあり時折食事等に出かけている。毎年中学生の福祉体験の場として提供しその場で認知症サポーター講座も開催して認知症への理解を広めている
地域との関わりは地域ケア会議等に参加し少しずつ認識して頂いている。これからも地域に根ざしたグループホームとなれるように継続的に取り組んでいきたい

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは「かぞくのような深い絆で、つながる心と心、らくらく生きていける日々を提供します」という理念を掲げ、介護計画を作成する際や日々の支援をする際の指標としています。運営推進会議の開催は全家族に案内し多くの参加があり、家族にもわかるよう1ヶ月の予定表を掲示したり職員の名前や顔写真を掲示するなど、得られた意見や要望については職員間で検討し改善に向けて取り組んでいます。また、個別外出の機会を利用しカラオケや足湯、神社や寺への参拝など懐かしい場所等へ出かけ馴染みの関係が途切れないような支援に努めています。ホーム内での菜園で収穫した食材や利用者の好みを取り入れた食事、運動会と称してボーリングや輪投げなどのレクリエーションにも力を入れており、利用者のできる事を維持しながら穏やかに暮らせるように取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念があり、事業所理念ができて職員間で共有ができています。	全職員で意見を出し合って考えた「かぞくのような深い絆で、つながる心と心、らくらく生きていける日々を提供します」というホームの目標となる独自の理念を掲げています。事務所内に掲示すると共にミーティングの中でも話し合い、理念を念頭に置き介護計画を作成するなど実践に繋がるよう取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域エリア会議に出席している。 リビング横の家庭菜園を地域の方に手伝っていただいている。 行事で地域の食事処・菓子司より配達をして頂き喜びを感じられている。	近隣への散歩や買い物時の他、ホームの駐車場で外気浴をしている時などに出会った方と挨拶を交わし、地域の店から弁当や和洋菓子などを購入したり、カフェの利用を通じて交流しています。併設の保育園から園児の来訪があり利用者とはふれ合ったり、中学生の福祉体験も交えた認知症サポーター講座も年に1回開催しています。運営推進会議や地域ケア会議などで町内の情報を得るようにしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター講座の開催を1年に1度開催している。今回は(11月中頃に開催予定)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の際には日々の写真などを見て頂き日頃の活動報告をしている。意見交換も行い改善に向け検討している。	運営推進会議は利用者や家族、町内代表者、地域包括支援センター職員などの参加を得て2カ月に1回開催しています。ホームからは行事やヒヤリハット、苦情に対する対応策の報告をしています。会議の中で出された意見を検討し、玄関前に職員の写真と名前を掲示したり、1カ月の行事予定ボードを各フロアに掲示するなどサービスの向上に取り組んでいます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政との直接的取り組みについてはできていない。	運営推進会議の議事録を担当課の窓口を持参したり、事故報告やわからないことなどを電話でやり取りしています。市から研修の案内などがあつた時には、可能な限り参加するようにし協力関係が築けるよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関施錠は夜間のみ行っている 日常的には出入りは自由に行っている 虐待や拘束については、毎月担当者を代えて資料を作り勉強会を実施している。 伝達研修を実施している。	年2回法人主催の身体拘束に関する研修に代表者が参加し、ホームで伝達研修を行う他、毎月ホーム内で勉強会を実施しています。勉強会では振り返りの場を設け、言葉や声かけの方法などについて考え、不適切な対応があつた場合は、都度注意をしたりミーティングなどで話しをしています。外出希望の利用者に対しては、職員が付き添い外気浴をするなど気分転換を図るようにしています。	

洛和グループホーム桂 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所代表が全体研修で学び、事業所内で伝達研修を行い職員間周知を図っている。また、事業所内にポスターを掲示し虐待の防止に注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修により制度理解はできているが周知には至っていない... ご利用者も成年後見制度を活用されている(5名あり)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に理解、納得していただけるように説明を行っている(入居相談センターの担当者と共に)疑問等あれば迅速に対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先にご意見箱を設置している(週1回確認) 年に一度の満足度アンケートなどにより意見・不満・要望を記入していただいている。 運営推進会議で意見交換している。	利用者の意見は毎日の関わりの中で都度聞いており、家族の意見は面会時や運営推進会議等で日々の様子を伝えながら聞いています。得られた要望などについては申し送りノートに記載し職員間で共有しています。また年に1回、満足度アンケートを実施し結果については家族に報告しています。運動させてほしいという要望や印刷物が薄いという意見が上がり、歩行の機会を増やしたり、利用者の様子を伝える月1回の便りの字をチェックするなど意見を反映するよう努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1・2回事業所ミーティングを実施。 月1回のエリア会議にて意見交換をしている。	職員の意見については、年2回の定期面談や毎月の各フロアのミーティングなどで聞くようにしています。参加できない職員に対しても事前に確認し、結果を伝え共有しています。また職員の様子を見ながら随時面談も実施しています。得られた意見の中からアームが外せる特殊な車椅子を導入したり、入浴介助をしやすくするために浴室の手すりを増設するなど、支援の向上に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の自己評価表や力量評価表にて把握に努めている。全体として、改善に向けたアンケートも実施し改善に努めている。 適宜、職員面談も行い把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時研修・現任研修・管理者研修等がある また、キャリアパス制度もあり、研修に参加できるよう勤務を調整している。		

洛和グループホーム 桂 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所・会社外での交流は少ないが外部研修など参加の機会を設けている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談は担当窓口を設けている。面接時には管理者・フロアリーダーも参加しご本人のご要望・や思いなど十分に話し合っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時や契約時に聞き取りを行い、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接は管理者・相談員で行い、その後医療面からの判断も行い、複数名によりサービス利用が適正かを見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	可能な限り一緒にできる場面作りに努めている、また自己決定ができるよう言葉かけを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に近況を報告したり適宜電話連絡をしている。必要時には協力を仰ぎ共に支えていく関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの品物や写真などを可能な限り飾っている。 友人や知人などの訪問や電話なども継続し途切れないように支援している。	友人、知人の来訪があった時には、居室に案内し、椅子やお茶を用意しゆっくりしてもらえるようにしています。年賀状などの便りについても葉書の購入や投函の支援などを行い馴染みの関係が途切れないように努めています。また、孫の結婚式や法事などの冠婚葬祭への参列、好きな歌手のコンサートへの参加、カラオケ、神社や寺へのドライブ等、家族の協力も得ながら支援をしています。	

洛和グループホーム 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃からご利用者同士で関われる環境を作っているが、居室で過ごされる方や、他のご利用者とのかわりが難しい方もおられ職員が中心となり関われるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご相談等があった際は、可能な限り相談を受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にご利用者やご家族から情報を収集しニーズを把握しアセスメントを行っているケアプラン作成時にはご本人・ご家族からの希望を聞いている。	入居前の面談時に今までの生活歴や趣味、嗜好、本人や家族の意向等を聞きアセスメントシートに記載し、主治医の意見やケアマネジャーからの情報等を取り入れ思いの把握に繋げています。入居後は日々の関わりの中で気づいたことなど記録に残し意向の把握が困難な場合は、様子や表情、家族からの情報を得て、カンファレンスで本人の立場になって、検討し職員間で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に情報収集し、またご本人からの聞き取りを行い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りで一人一人の現状を職員間で共有し、毎月あるカンファレンスでも状態の変化などを把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の変化やご利用者・ご家族からのご要望をもとにカンファレンスを行い介護計画を立案している、医師や看護師にも意見をいただいている。	本人や家族の意向を基にカンファレンスを行い介護計画を作成しています。計画期間は入居時は3カ月、その後6カ月、大きな変化がない場合は1年の期間としています。日々の様子を記録する介護日誌は介護計画と連動させて記載し、モニタリングは6カ月に1回行っています。見直しの際には再アセスメントを実施し、事前に医師や看護師の意見も聞きカンファレンスで話し合い、現状に即した介護計画になるようにしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態は介護日誌に記録している 特変あれば日々の申し送りなどで伝え共有し検討している。		

洛和グループホーム 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療との連携をはじめ、相談ができる体制ができている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣にスーパーがあり買い物に行っていたが、今年スーパーがなくなり買い物に行けないところがある。 併設している保育園との関わりを持っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診やご利用者・ご家族の希望に添った医療が適正に受けられるようよう支援している	入居前のかかりつけ医を継続することも可能である事を伝えていますが、ほとんどの利用者がホームの提携医に変更しており月に2回の往診を受けています。訪問看護師の来訪が週に1回あり、希望者は歯科往診や歯科衛生士による口腔ケア、訪問マッサージを受ける事もできます。専門医の受診は基本家族対応となりますが、臨機応変に家族と協力しながら支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問と24時間いつでも連絡がとれる体制ができおり、必要な看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリー等で情報の共有を行い状態把握として面会にいたり、病院の相談員への小まめな連絡をとるようにし早期退院に努めている。 常日頃からまだ出来ていない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期医療の説明・重度化の指針など入居時に説明し理解を得ている またその場合はご家族にも説明を行い介護にあたっている。 地域との関係者との取り組みについてはできていない。	入居時に看取り指針に基づいて、ホームとしてできる事の説明を行っています。重度化した場合は、状況や家族の意向を把握した後家族や医師、職員の三者で検討し、連携を取りながらできる限りの支援をしています。看取り支援については、法人主催の研修があり希望者が参加し、不安なことがあればその都度、確認し解決するようにしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習を全職員が受けられる体制ができている。また緊急対応マニュアル作成し急変時に備えている。 AEDも設置し緊急時対応ができるようにしている。		

洛和グループホーム 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、消防署立会いによる消防訓練を行っている。 地震・災害のマニュアルもある。 地域の避難所マップにて把握している。	年に2回、消防署員立会いの下、併設の保育園と合同で昼夜を想定した避難訓練を行っています。通報や初期消火、避難誘導の訓練を消防署員のアドバイスをもらいながら可能な利用者と一緒に行っています。その他、年2回の机上での訓練も行っています。近隣住民へは避難訓練開催の案内と運営推進会議で結果報告をしています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに考慮し、1人ひとりに合った言葉かけ対応を行っている。	月に1回、ホーム内での接遇マナー研修や勉強会を開催し、振り返る機会を設けています。基本、名前は名字で呼び、丁寧語で声かけし慣れ合いにならないように気をつけています。不適切な対応があった場合は管理者が注意しています。同性介助については可能な限り対応するようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その日とその人に合った言葉かけを行い、自己決定ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者のペースを大切に、可能な限り好みに添った対応を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な限り、入浴時や起床時など服の選択をしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り、メニューを一緒に考えたり、その他準備や味付け盛り付け等を行っている。共にできない方でも言葉かけをしたり食事が楽しめるように支援している。	発注した食材を週に2回配達してもらい、献立は利用者の好みを聞きながら一緒に考えています。可能な利用者には野菜の下ごしらえや味付け、盛り付け、洗い物等に携わってもらい職員と一緒に会話をしながら食事を摂っています。寿司などの出前やケーキや蒸しパン、ゼリーなどの手作りおやつなども取り入れて、食事が楽しみなものとなるよう取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養については状態に合わせて対応している。 食べる量が少ない方はプリンやゼリー等で補い、水分量が少ない方はチェック表を活用している。		

洛和グループホーム 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを促し、必要な方は定期的に訪問歯科にて治療を受けていただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各ご利用者に合わせて定期的な誘導を行ったり、パッドの確認を行っている。	座位が可能な方は、トイレでの排泄を基本としています。個々人の排泄チェック表を付け、表情や仕草を見ながらプライバシーに配慮し、声かけや誘導をしています。夜間のみポータブルトイレを使用する方やおむつを使用する方など様々ですが、個々に合わせた支援方法や衛生用品についてもカンファレンスで話し合い検討しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から乳製品の提供や水分補給、体操を取り入れる等行い便秘が予防できるように心がけている。 帯便が続く時等は医師の指示による服薬介助している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	可能な限りご利用者の希望に沿って入浴できるように支援している。 二人介助の入浴の方も多く難しいこともあるのが現状ではある。	週に2回は午後から入浴してもらえるようにしています。午前中に入浴や回数を増やすなどの希望があれば、可能な限り対応するようにしています。湯は一人ひとり入れ替え、ゆず湯や入浴剤を入れたり、好みのシャンプーを持参するなど、楽しく入浴してもらえるようにしています。拒否される方については、声をかけるタイミングや職員を変え入浴してもらえるように努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息がしたいときに出来るように対応している。 夜間も安眠できるように居室環境や温度設定をおこなっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルがありそれに添って援助を行っている。 お薬リストや一覧表にて内容の把握をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	園児の来訪等が定期的により楽しみや喜びにつながっている。 1人ひとりの得意なことを把握しそれがいかせるような場面の提供を意識している。		

洛和グループホーム桂 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候等に配慮し、短時間でも外に出るように心がけている(畑の収穫・散歩・保育園への訪問など) 日常的に行けない場所には行事等で出かけられるように支援している。	近隣への散歩や敷地内での外気浴は日常的に行っています。少し足を伸ばして季節の花見や新緑見学、紅葉狩りに出かけたり、ショッピングモールに買い物や外出に行っています。個別外出としてカラオケや足湯、神社仏閣参拝にも行くことができ、できるだけ希望するところに出かけられるように努めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部のご利用者はお財布にお金を所持されており自身で管理されている。それ以外の方も希望があれば買い物できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話の使用や手紙のやり取りの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花の写真を飾ったり、壁画作りをして飾っている。 園児からの作品を貼ったりと工夫をしている 家庭菜園をしており季節に合わせて野菜や花を育てたりと、居心地のよい環境づくりを心がけている。	共用空間には利用者や保育園児と一緒に作った季節ごとの貼り絵や写真、生花を飾るなどして季節を感じられるようにしています。居心地良く過ごせるようにテーブルやソファをバランスよく配置しています。日々掃除や換気を行い、温湿度計や空気清浄機、加湿器なども備え付け、体感にも気を付けながら快適に過ごせるように調整しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者同士の席の配置やソファの配置などで個別空間が作り出せるようにしている 各々の様子等をみて心地よく過ごせるように居場所の提供を心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ馴染みのものを使っていたり、出来るだけ自立した生活が送れるように支援している。 また生活環境の動線や整理整頓に努め安全に過ごせるようにしている。	入居の際には、普段使っていた馴染みの物を持参してもらう様に説明しています。テレビやラジカセ、パソコン、写真、タンス、編み物道具、自身の書道の作品、油絵などの持ち込みがあり、配置については、家族と一緒に考え、その人らしい居室になるようにしています。掃除や換気は利用者と一緒にいき快適に過ごせるよう配慮しています。希望があれば布団を敷いて休むことも可能です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者のできる事を職員全体で把握し、出来るだけ自立した生活が送れるように支援している。 また生活環境の動線や整理整頓に努め安全に過ごせるようにしている。		